

Bグループ：戦場ヶ原エリア

〈メンバー紹介〉

ネイチャーガイド	金谷 武尊	日本
宇都宮大学学生（リーダー*）	ジム シアンリー	カンボジア
	トウブンキン	中国
	ドングエンコイ	ベトナム
	*バトスヘ ウヌビレグ	モンゴル
	ウ メイリン	中国
宇都宮大学	重田 康博（教員）	日本
	陳 佳敏（CMPS 研究員）	中国
	小野寺 櫻子（CMPS 事務局）	日本
国際交流協会	枝 典男	日本
	赤澤 正之	日本
	サプコタ ビマレンドラ	ネパール

〈コース紹介〉

赤沼駐車場	ガイドウォーク 戦場ヶ原の成り立ち、湿原環境、自然の保全、オーバーユース、水質問題、シカ問題 等
赤沼入口	
赤沼裸地	
ワタスゲデッキ	
ヤツモウラ	
戦場ヶ原中央部	
木道の出島（休憩所）	
青木橋	
小湿原	
小田代原分岐	
泉門池	
う回路	
小滝周辺	
湯滝駐車場、観瀑台周辺	

〈フィールドワークレポート〉

ウ・メイリン (中国)

日光の戦場ヶ原ハイキングコースに参加して、スライド発表とかに参加しまして思いましたのは、このハイキングコースは他のハイキングコースと比べましてそんなに高い山を登るではなくて、高低差がほとんどなく、だれでものんびりでここでハイキングできると思った。木道はしっかり整備されていてとても歩きやすかった。ハイキングの途中、いる場所によって異なった木の名前や動物を紹介されまして、大自然に包まれて離れたくなくなった。美しい景色と美味しい空気の中、ゆっくりと歩けましてとても楽しかった。戦場ヶ原の自然のままの環境を大切にしているのを共感できた。

ドン・グエンコイ (ベトナム)

2021年11月、宇都宮大学の主催したプロジェクトで、私は他の留学生の方々と一緒に、地域観光振興及び自然保護を目的に、奥日光へフィールドワークに行った。このプロジェクトは留学生のみんなをチームに分けて、奥日光のさまざまな見所の魅力を実感させたのである。参加した私はこの観光地の美しさのみならず、多くの問題点も見えてきた。そのため、グローバル人材の視点からチームのみんなと一緒に解決方法を提案した。この機会のおかげで、さまざまな人に出会えて、みんなにたくさんの発想に触れられて、チームワークを教わった。また、フィールドワークで問題を自分で見つけることも、その解決法を提案することも初めてですから、とてもいい経験になった。将来の研究には大変役立つと思う。

ジム・シアンリー (カンボジア)

この度、フィールドワークに参加して奥日光（戦場ヶ原）は非常に魅力的のある観光スポットであり、冬以外にハイキングを楽しめる場所だと感じられた。しかし、外国人観光客の立場から考えると足を運ぶまではやや難しいと感じている。奥日光、主に戦場ヶ原まで行く交通手段はまだ不便だと感じられた。そして、戦場ヶ原に訪れる観光客がハイキングに興味関心のある人のみと考えられます。そのようなわけで、今後より多くの外国人観光客に訪れてもらうために現時点でやるべきことはできる限り多くの人に奥日光（戦場ヶ原）の魅力を知ってもらうことだと思われる。

トウ・ブンキン (中国)

今回の奥日光にフィールドワークを通じて次のように感じている。まず、冬は戦場ヶ原の観光客が確かに少なかった。しかし、寒かったのに、日光に来た人がいることが不思議だ。また、戦場ヶ原で観光客を対象としてアンケート調査をしました。多くの観光客がハイキングするために戦場ヶ原がくると答えました。この調査結果から判断すると、日本人のみんながハイキングなどの活動があるからこそ冬でも奥日光にきました。もっと考えれば、奥日光の魅力的なところを活かしていいイベントを行うことが一つの宣伝だと言えるのではないだろうかと思う。

グループリーダー：Batsukh Unubileg / バトスヘ・ウヌビレグ (モンゴル)

フィールドワークのときどこの道か分からないのですがこの詩の一部を読んだ。“路漫漫其修远兮 吾将上下而求索 能否”。

11月だったから寒くて、草花が枯れていても戦場ヶ原の細道を歩いていると、自然の美しさと平安を実感した。そこに行ってこのような気持ちがあった人なら、さらに4つの季節ごとに自然の美しさを味わいたくなり、絶対、再び訪れるだろうと思った。当時、地球の一部となるこの自然をどうやって守り続けていくかは一番大事だと思いましたが、それと同時にこの自然を感じた人はこういう素晴らしい場所を自然に、

大切にしようしていくはずだと思った。また、こちらに来てこの素晴らしい自然を一人で楽しむだけでなく、同じ国の友達たちにもシェアして、より多くの友達奥日光の戦場ヶ原に連れてきたくなりました。これはささやかなことですが、環境開発のために私たち留学生ができることであるかもしれないと思う。

最後に、このプロジェクトを主催した日光市観光経済部観光課・日光市国際交流協会・宇都宮大学国際学部附属多文化公共圏センターの先生方と皆様へ「奥日光の自然を活かした観光地づくりを留学生と考える」フィールドワークとシンポジウムに参加させていただき心より感謝を申し上げます。

